

生活者

生活と政治をつなぐ情報紙

通信

No.390
2024.3.1

東京・生活者ネットワーク

発行 東京・生活者ネットワーク
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASK ビル4・5階
TEL.03-3200-9189 FAX.03-3200-9274
Eメール tokyo@seikatsusha.net
URL https://www.seikatsusha.net
発行責任者 山内玲子
定価 年間1000円・1部100円 郵便振替口座 00130-3-18417
毎月1回1日発行 1994年5月23日第三種郵便物認可

生活者ネットワーク3つのルール

1 議員は交代制(ローテーション)

生活者ネットワークの議員は、交代制。議員を職業化、特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。

2

議員報酬は市民の政治活動資金に

生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。

3

選挙はカンパとボランティアで

選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでカンパ(カンパ)と知恵や労力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

都議会ネット

■2024年度予算特別委員会。総括質疑:3月12日~14日、締めくくり質疑:3月25日・26日。

地域ネット

中野ネット

ともに考えるなんでも相談会(毎月第2木曜日)
3月14日(木) 13:00~16:00 中野・生活者ネット事務所(中野駅よりバス) 困っていること、区への提案、など 03-5942-6793

江戸川ネット

みんなでつくる議会の質問!「政策ゼミ」
3月17日(日) 14:00~16:00 タワーホール船堀307会議室(船堀駅) 報告と情報交換 03-5607-5975

清瀬ネット

生活のお困りごと相談ください(毎月第3日曜日)
3月17日(日) 14:00~16:00 清瀬・生活者ネット事務所(清瀬駅) 家計相談員が対応します。介護のご相談も。秘密厳守 042-494-8720

杉並ネット

なんでも相談室(毎月第3月曜日)
3月18日(月) 10:00~12:00 杉並区阿佐谷南1-15-6和久井ビル3階(杉並・生活者ネット事務所の上階)(南阿佐ヶ谷駅) 生活の不安、役所や法律相談は敷居が高いなど、お困りのことを一緒に解決しましょう 03-5377-5080

江戸川ネット

ひとみとみつえと井戸端会議
3月21日(木) 20:00~ Zoom 区議の伊藤ひとみ・本西みつえとのオンラインお話し会 03-5607-5975

練馬ネット

9条スタンディング(毎月9日)
4月9日(火) 12:00~13:00 練馬駅南口(西武池袋線、都営大江戸線) 主催:生活者ネット9条の会 03-3993-4899

葛飾ネット

なんでも相談会(毎月10日)
4月10日(水) 10:00~12:00 葛飾・生活者ネット事務所(京成高砂駅) 区政のこと、暮らしの中の困りごと、など 03-5876-4757

生活者ネットワークは東京都内32の自治体にあり、都議1人、市・区議39人の議員とともにそれぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。

東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。



演題「政治を変えれば生活は良くなる」で講演する、前明石市長の泉房穂さん。兵庫県明石市生まれ、障がいのある弟が地域の学校で受け入れられなかった年少期に経験した社会矛盾。以来、人にやさしい市民が主役のまちづくりを実践。弁護士、衆議院議員を経て明石市長を2011年~3期12年務める

※講演の様子は、以下のURLから視聴いただけます。https://youtu.be/mC5w7EZJEYk



政治を変えれば生活は良くなる

泉房穂さんをゲストに「新春のつどい」開催

2024年1月30日、東京生活者ネットワークは泉房穂前明石市長をゲストに迎え、「2024新春のつどい」を開催した。当日は、生活者ネットワークの会員など200名を超えるメンバー参加のもと、運動グループ/全国市民政治ネットワーク各位、市民団体や労働組合関係者、都議会議員/国会議員、世田谷区長/立川市長ら、また、字識者/研究者など多数の来賓の方々に臨席いただき、改めて「参加と自治の市民政治」の価値を共有する機会となった(東京・東新宿)。

設立以来約半世紀を経ようとする2024年、東京生活者ネットワークは都内32の自治体に、都議1人、市・区議39、総勢40人の自治体議員をもつ地域政党となった。この折リアル開催となった今年のは、泉さん

つどいでは、自治体改革に大舵を振る注目される兵庫県明石市の前市長泉房穂さんをゲストに迎えることができた。ここでは、泉さんによる講演「政治が変われば生活は良くなる」から報告する。

子どもに届く支援は、所得制限なし/対象はすべての子ども

開口一番泉さんは、今日この場に来たくて来た。なぜならここに政治を変える可能性があるからだ、と発信。自ら「やりきった」と自認する明石市での任期を振り返り、その改革の在りようを熱量を込めて述べた。

まず、子ども関連予算を増税なしで2倍以上にしたこと。具体的には子ども施策の、中でも「5つの無料化」を断行。①18歳までの医療費②第2子以降の保育料③中学校の給食費④公共施設の遊び場⑤おむつ定期便(0歳児の見守り訪問)——の無償化である。さらに、「子ども家庭に寄り添う施策」に着手。①養育費の立替払いと親子の面会交流支援②児童扶養手当の毎月支給③戸籍のない子どもの支援④全ての小学校区でこども食堂を開設⑤児童相談所の改革第三者評価の充実など

——へと施策を展開。これら施策は当時、全国初と注目されたが、世

界を見通せば当たり前、日本の子どもを取り巻く環境のお粗末さが異常なのである。と。また、子ども施策を重点化することで子ども家庭の経済が廻り、商店街が、まちが活性化、税収増を生み出し、やがて障がい者や高齢者施策の充実へと進め、結果、明石市は子どもが生まれ育つ、人口増のまちに変貌していった、という。

明石から変える。人に冷たい社会を変えてみせる。10歳の少年だった私が誓った思いを実現するために50年の月日が必要だった。その、いつの時も市民とつながり、市民と共にまちを変えてきた。計画・予算・人事に権限をもつ市長の任を得て、自治体職員意識をも変えてきた、などを挙げた。

泉さんが明石市で取り組んできた市民の、子どもの誰一人も取り残さない政治、政治は市民の暮らしをよくすることという話は、設立以来「政治は生活の道具」「市民の声が政治を変える」をモットーに、それぞれの地域で、市や区を越えた東京問題には全体で取り組んできた「生活者ネットワークの政治」に直結する思想、理念でもある。

講演の締めくくりで泉さんが発した、「選挙は、民主主義は美しい」「金持も、そうでなくても平等に一票の力を持つている」という覚醒の言葉。主権者は市民 私たちは市民の力を信じて、広げ、つながる役割を果たす1年を開始しよう。

まとめ/編集部・加藤千鶴子

この国は過去の災害から何を学んできたのか!? 能登半島地震と私たちの暮らし

元日の大地震から早や2カ月。今回の大地震の特徴は次のように整理することができると思われる。

第一に、震度7の大地震、津波襲来、そして輪島朝市通りの大規模火災という複合災害であったこと。第二に、能登半島の先端、奥能登が震源となり、半島の道路が陥没、隆起、土砂崩れで通行不能、海岸が隆起して漁港などが使用不能など、半島全体が孤立したこと。

第三に木造家屋の多くが倒壊し、圧死者など家屋倒壊を理由とする死者が多かったこと、第四に、志賀原発が3.11以来稼働を停止していたため、大きな災害はまぬかれたものの、変圧器故障などのトラブルが多発し、また避難計画がまったく機能しなかったことが明らかになったこと。

第五に、生活インフラである電気が停電し、水道の損壊が激しく、その基盤である道路の復旧が長期化し、生活インフラの復旧も長期化したこと、第六に、自治体職員数の激減と非正規化によって、避難所運営などが困難をきわめ、仮設住宅建設などにも他の自治体からの応援で対応していること。

第七に、石川県政は前知事以来楽観論に終始し、東日本大震災以降も地域防災計画などを見直さなかったこと、群発地震が続いても大地震に備えることができなかったことなどを、あげることができる。

阪神淡路大震災から29年、東日本大震災から13年、熊本地震から数えて8年、一体この国は過去の災害から何を学んできたのだろうか。また安倍政権以来、地方創生や国土強靱化など、掛



国道249号、輪島市稲舟町付近、1月18日撮影。出典:国土交通省ウェブサイト https://www.mlit.go.jp/road/road_fr4_000151.html

け声だけは華々しいが、地方を置き去りにし、ゼネコンだけを潤してきたのが実態である。能登半島の壊滅と言ってもいい惨状は、能登の皆さんには誠に申し訳ないが、地方創生・国土強靱化の成れの果てである。

ひるがえってわが東京はどうか。小池知事による2024年度予算案が発表されたが、「世界一安全・安心で強靱な都市」とは言いながら、臨海部に一層人口が集中する政策を乱発し、地震や豪雨対策、富士山などの火山対策は被害想定が甘すぎる。

国や都の被害想定に安心することなく、自らの命は自ら守る覚悟で、大地震や台風、豪雨災害に備えよう。



伊藤久雄 NPO法人まちぼっと理事

